



特設ページは「[ゴルゴ13 海外安全対策マニュアル](#)」で検索！  
 興味を持った方は「[海外安全ホームページ](#)」で検索！  
 海外安全アプリは App Store または Google Play でダウンロード可能

# ゴルゴ13が教える 海外安全対策⑨



**平時こそが重要だ！**

——危険を予防し、有事に備える

◎さいとう・たかを

前号で紹介したように、海外での事業展開では、企業のトップが安全対策への意識を高め、①体制づくり、②マニュアルの作成、③緊急連絡網の整備を行うことが重要です。そのうえで、平時から本社と現地が連携して、しっかりと安全対策を施しましょう。

今回ゴルゴは、自身が作成する「Gマニュアル」に、外務省の海外安全情報を読み解く術を盛り込むように依頼されたようです。

## 情報収集と教育を徹底する

安全対策の第一歩は、日常的な関連情報の収集です。その際、外務省が提供する海外安全情報が役立ちます。

まず、「安全対策基礎データ」では、国・地域ごとの犯罪発生状況や滞在時の留意事項などがまとめられています。「広域情報」では、国際テロ組織の活動など、複数の国や地域にまたがる広範囲で注意が必要な情報が得られます。「スポット情報」は、特定の国や地域で日本人の安全にかかわる事案が発生した際に、速報的に出される情報です。これらの情報は、外務省のウェブサイトや「たびレジ」で簡単に入手できます。

また、現地人スタッフは重要な情報源です。必要な情報が確実に得られるように、日頃から良好な関係を築くことが大切です。

さらに、従業員への安全対策に関する教育も必須です。渡航前の研修では、「自分の安

全は自分で守る」という意識をしっかりと持たせ、自ら情報収集や対策を行うように促します。さらに、①目立たない、②行動を予知されない、③用心を怠らない、という「安全のための三原則」を徹底させましょう。

## 拠点の安全対策と有事への備えを！

海外に拠点を構える場合、危険の予防に努めてください。その際、現地の治安機関の信頼性、拠点所在地や通勤経路の安全性、ビルの他の入居企業に関する情報、建物の耐震性などを確認することが重要です。また、犯罪者は比較的侵入が容易な場所をターゲットにすることが多いので、周囲と比べて同等以上の安全対策を施すことが予防につながります。

しかし、どれだけ予防に努めても、危険な事態は発生し得ます。そのため、有事に備えた定期的な訓練が不可欠です。事前に作成したマニュアルに基づいて訓練をくり返すことで、有事の際に迅速な対応が可能となります。訓練結果を踏まえて、適宜マニュアルを修正し、安全対策の充実化を図りましょう。

加えて、保険も有事への備えの一つです。保険への加入によって、金銭的な補償にとどまらず、危機管理に関する最新情報やノウハウの提供を受けられる場合があります。保険会社によってサービスの範囲や対応能力が異なるので、自社のニーズに合わせた保険を選択することが重要です。